

大津のことがもっと好きになる情報誌

広報 おおづ

5 MAY 2018



Public relations
OZU TOWN

広報 おおづ 2018 5

発行・編集 ■大津町・総務課
〒869-1292 熊本市東区大津町大字大津 1233 番地
TEL.096(293)3111 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/>
※広報のおおづは環境に配慮して再生紙と植物インクを使っています。

UD
FONT
易やすぐ読みまちがえにくい
フォントを採用しています。

Clozu-up Ozu-jin

クローズアップ 大津人



◀集まると自宅で作った作品などのお披露目から始まる。意見交換や雑談をしながらの作業は笑い声が絶えない(写真①)。
全て手作業で、作成に2カ月かかる作品もある。頻度は少ないが町外での委託販売時は作品の魅力や「復興応援」の機運も手伝い、飛びように売れる。「応援してるよ」販売時にいただく声もまた、アミマーさん(ハートニットの編み手のこと)の励みになるという(写真②)。



「仲間で集まる時間はいつも楽しみ」

ハートニットくまもと・OZU

編み物で熊本地震からの復興を目指す「ハートニットくまもと・OZU」をクローズアップする。代表の徳永陽子さん(後列左から2番目)に話を聞いた。

毎週火曜日の昼下がり。室設団地集会所「みんなの家」に一人、また一人と紙袋を持った人が集まる。

「私、こんなのが作ってきたの」と取り出したのはニットの花があしらわれた髪飾り。「ハートニット」とは東日本大震災をきっかけに生まれたプロジェクト。震災で家などをなくしてしまった人たちに、寄付で集まった糸を配り、編み物を通して被災した人の心を救う活動だ。完成品は支援してくれる企業を通して販売され、売り上げは製作者の生活再建のための費用の一部となる。

「ハートニットくまもと・OZU」は、その活動の大津町版。平成28年10月から始まった。「被災した心に一番必要なものはなんだろう」と考えて始めました」と徳永さん。週2回集まり、編んだ作品のお披露目や製作を楽しむ。作品はアクセサリ、バッグなど、さまざま。

「始めた当初は、みんな上手にできなくて商品にならないようなものばかりでしたが、最近では全国展開する雑誌に取り上げられるほど。問い合わせの数が比例し、皆さんの技術が上がっています」と徳永さんは太鼓判を押す。

「家族が帰ってくるのはいつも遅くて、日中はずっと一人でさびしい。こんな日が自宅の再建まで続くのを考えると苦しい。けれど、編み物をするのが紛れるし、仲間で集まる時間はおしゃべりがたくさんできるので、いつも楽しみ」と笑顔で話してくれたのは最高齢の93歳、本田スエちゃん。

「居場所ができたし、頭の体操にもなったりと、編み物はいいこと尽くめ。仮設住宅を卒業し、編み物を『生活再建の手段』から『趣味』にするまでがこの活動のゴールです」と徳永さん。その視線の先には談笑する会の皆さん。明るくひたむきな姿が地震から2年経つ町の姿に重なった。

こころの声

▼チャンスを選び、広報4年目に突入。精進します▼震災から2年。シンポジウムの準備で地震当時の写真とにらめっこする時間があり、当時は思い出しながら復興への思いを新たにしました(MDMC)

▼今月号から広報担当に加わりました。5月号を作成するなかで、「広報おおづ」はたくさんの人たちに支えられていることを実感し、感謝の気持ちと同時に身の引き締まる思いです▼町の情報をわかりやすく皆さんの手元まで届けられるよう精進します(UE)

からいもくん便り

大津町総合情報メール
携帯電話やパソコンのメール機能を活用して、生活に役立つさまざまな情報をお知らせするシステムです。
登録方法: ozutown@gw.ansin-anzen.jpに空メールを送信してください(スマートフォンの場合は件名に任意の1文字「あ」などを入力して送信)。

今月のみどころ

特集 **あなたの力が必要です**～求められる介護人材～

平成30年度 施政方針

平成30年度 町の予算

第6次大津町振興総合計画スタート